

2021年5月21日

三井 E&S 造船株式会社
株式会社商船三井
国立大学法人東京海洋大学
株式会社三井造船昭島研究所
商船三井フェリー株式会社

世界初 大型カーフェリーによる実岸壁での自動離着棧に成功

三井 E&S 造船株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：船津勇、以下「三井 E&S 造船」）、株式会社商船三井（本社：東京都港区、代表取締役社長：橋本剛、以下「商船三井」）、国立大学法人東京海洋大学（本部：東京都港区、学長：井関俊夫、以下「東京海洋大学」）、株式会社三井造船昭島研究所（本社：東京都昭島市、代表取締役社長：前田泰自、以下「昭島研究所」）は、国土交通省の「船舶の自動離着棧の安全性に係る実証事業」（以下「自動離着棧実証プロジェクト」、註1）に於いて、2021年3月から4月にかけて商船三井フェリー株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：尾本直俊、以下「商船三井フェリー」）が所有する大型カーフェリー「さんふらわあ しれとこ」を用いて、茨城県大洗港の実岸壁にて自動離着棧の実証試験を行い、大型カーフェリーとしては世界で初めて実岸壁での自動離着棧を成功させました。

今回の実証試験は、実際に営業航海に従事している大型カーフェリー（総トン数 11,410 トン）を用いた点、且つ実岸壁で実証試験を実施したという点において、世界初の試みとなります。実証試験に際しては、実施前に「さんふらわあ しれとこ」の操船性能を踏まえて、操船計画・実施要領・中止基準などを策定し、シミュレーションなどにより様々な事象下での安全性評価を十分に行いました。また、海上に想定した仮想棧橋に対しての自動離着棧を行い、安全性を実船においても検証した上で、実証試験を実施しました。

今後は、今回の実証試験結果を活かし、他船種でも実岸壁での自動離着棧の実証試験を行い、より汎用性の高い技術とすることを目指します。また、自動離着棧のみならず、自律航行の実現に向けた取り組みも進めていきます。

三井 E&S 造船、商船三井、東京海洋大学、昭島研究所、商船三井フェリーは、自動離着棧実証プロジェクトをはじめとする自動運航実現に向けた活動を通して、船員の労務負担軽減を目指し、安全で安心な海上交通を探求し続けます。

（註1）

2018年7月27日のプレスリリース[自動離着棧実証プロジェクトが国土交通省 平成30年度 自動運航船実証事業に採択](#)にてお知らせした自動離着棧実証プロジェクトを指します。



※自動離着棧シミュレーション及び実証試験の様子

<本件に関する問い合わせ先>

□ 株式会社三井 E&S ホールディングス
自律操船システム事業推進室
TEL : 03-3544-3345

□ 株式会社商船三井
コーポレートコミュニケーション部 メディア広報チーム
E-MAIL : mrtmo@molgroup.com / TEL : 03-3587-7015 / FAX : 03-3587-7705

□ 国立大学法人東京海洋大学
総務課 広報係
E-MAIL : so-koho@o.kaiyodai.ac.jp / TEL : 03-5463-0355